
令和5年度教育委員会活動点検評価委員会 報告

- 1 期 日 令和5年7月5日(水) 午後2時から
2 会 場 町民会館3階 第1会議室
3 参加者

<評価委員>

岐阜大学名誉教授	岩田 惠司 様
岐阜大学名誉教授	石川 英志 様

<教育委員会参加者>

教育長	鈴木 雅史
教育課長	大岩 裕樹
教育主幹	小嶋 大介
子育て支援専門監	鷺見 るみ
給食センター事務長	嶋田 定
学校再編専門監	玉置 雅野
学校教育係長	鈴木 幸祐
生涯学習係長	安江 健太郎

- 4 進行プログラム (進行:大岩教育課長)
- | | |
|--------|--------------|
| 14:00~ | 教育長あいさつ |
| 14:10~ | 自己紹介 |
| 14:15~ | 令和4年度活動状況の報告 |
| | ◆全体報告 |
| | ◆質疑応答・補足説明など |
| 15:10~ | 指導・助言 |
| 15:50~ | 教育長 お礼の言葉 |

岐阜大学名誉教授 石川英志様より指導・助言

- 令和4年度は、まだコロナ禍であったが、苦しい中でも白川町は諸施策に取り組んでいたことがよく分かった。
- 小中一貫教育だけでなく、それを包括する0歳から途切れなく15歳までを見届けていくという意識があることがよい。その中で、活動・授業のユニバーサルデザイン化から、活動・授業のインクルーシブ化へと転換していくことが、子どもたちの個性を尊重して育成することになる。また、今後、学校再編、学校建設においても、インクルーシブ教育に即して計画の段階に位置付けていくことが重要である。

- ICT機器の活用については、子どもの学びにとって効果的であるかどうかを検証していくことが重要であり、引き続き各学校の実践を基に検証されたい。その具体の1つとして、ICT機器は子どもの思考の結果を可視化することはできるが、一人一人の思考のプロセスは消えてしまう。今後、どうしていくかについて、教員研修として取り組んでいけるとよい。
- 若手教員の指導力向上に向けた研修は重要である。また、若手を育てる中堅教師の意識をどう育てていくのかを考えていくことは、白川町教育の大きな魅力の一つとなる。教師を育てる教育は、小中一貫教育においても重要なテーマとなる。
- 部活動の地域移行については、全国的な問題である。今後も地域の受け皿等について、検討を進められたい。
- ふるさと白川を基盤とした特色ある教育活動の課題についてクローズアップし、各学校の活動内容や目的等を交流することを通して、白川町の特色ある教育活動としてまとめていくことは、学校再編の重要事項である。
- ふるさと白川を愛する心を育むために、イベントや行事を超えた学びを、豊かなコンテンツを生かしてどう展開していくのかについて深められたい。
- 学校再編によって統合した双方の学校の生徒が、互いに影響を受けてよい成長がみられている。こうしたよさを地域に情報として発信していく必要がある。

岐阜大学名誉教授 岩田恵司様より指導・助言

- 会の前に教育現場を見て、先生を見て、子どもを見てきた。先生はのびのびと笑顔で授業をしていた。学校長の指導性が発揮され、教員が育成されていることは非常に重要な要素である。
- 地元出身の教員が、ある程度学校の中にいることはとても大事である。これを実現するには、地元で早いうちから芽を見つけ育てていく。教員志望の人材を、町を挙げて育てるには、教職員は忙しくても生き生きと働く姿を、子どもたちに見せていく必要がある。そうでないと子どもたちの職業に対する意欲も希望もわいてこない。そのために、教員をリスペクトし、地域で教員を育てることが、子どもたちを育てるうえで重要となる。
- 先生が子どもと一緒に活動を通して接することが大切である。また、地域と先生も一緒に活動を通して接するというのも、地域の理解、親の理解、家庭の理解等をするうえで重要である。
- 教育とは、今現在の課題を解決するためではなく、今が苦しくても先行投資をするものであるという気風を地域がもつことが大事である。今を豊かにするのではなく、何年後かを充実させるために先行投資することに、教育の原点がある。こうした社会的なコンセンサスが教育の場面で必要である。